

エコロジと原子力

●エコロジストブルーノ・コンビ氏

世界の人口は、一八五〇年以來、四倍に増加し、エネルギーの消費量もこれからの半世紀でさらに倍増すると見られています。環境保護主義者として、私はエネルギーの急激な消費が地球環境に与える影響について非常に懸念しています。

電源構成をみると圧倒的多数が石炭、石油、天然ガスといった化石燃料です。しかし世界の石油産出はピークを迎えつつあり、数年のうちに減少を始めることになります。

再生可能なエネルギーも

原子力エネルギーも両方使っていくべきだ

また大気中の二酸化炭素の濃度は、特にこの一五〇年くらいの間にすでに三〇%も増え、過去四〇万年間に蓄積されたよりもはるかに高いレベルになっています。有史以來初めて、人間が環境を地球規模で重大な形で変えつつあるのです。一億年かかってでき上がった石油を五〇年で使い尽くそうとしている。今必要なのは、化石燃料を燃やすことをすぐやめる、ということです。

そして、化石燃料に替わる代替エネルギーを開発し、使っていく必要があります。これまで多くの環境団体は、原子力と再生可能なエネルギーを対峙させてきましたが、私は再生可能なエネルギーも原子力エネルギーも両方使っていくべきだと考えます。

化石燃料と比べて、原子力は一〇〇万倍の効率があまり

石油と違って、ウランは地殻のどこにでも存在し、一トン当たり三グラムの含有量があります。ウランは資源として無限ではありませんが、今、発見されているウラン資源と原子炉の新しい技術を使えば、私たちのひ孫の時代に至るまで十分のエネルギーを持ち、将来に備える時間も十分あるわけです。気候に対して壊滅的な変動をもたらすこともなく、また経済に混乱を起こす危険もなく、十分に備えることができるわけです。

今現在、我々は石油の時代を生きていますが、できるだ

です。ウラン一グラムで生成されるエネルギーは、石油二〇〇リットル分です。また原子炉はコンパクトで、場所もとれません。

ほんの数個のウラン鉱山が地球上にあれば、何千という油田に匹敵し、化石燃料を燃焼して排出される二酸化炭素の量と比べれば、放射性廃棄物は非常に少量、つまり数百万分の一であり、簡単に封じ込め、また安全に貯蔵することができま

エコロジストはこの放射性廃棄物に対して恐怖感を抱いており、それが誇張されています。しかし適切に扱えば、放射性廃棄物は危険ではありません。一般大衆に理解を求め、社会が重要性を認めていくことが必要です。

使用済燃料の再処理は非常にエコロジカルな工程である

そして使用済燃料の再処理は、非常にエコロジカルな工程であり、エコロジの観点から見ても、使用済燃料を直接処分してしまうというのはばかげたことです。まだ九七%も非常に貴重な原子燃料が残っているからです。

再処理の技術は、現在、クリーンではあるが限られた資源を使っている原子力を、よりクリーンで、ほとんど無限ともいえる資源を持ったエネルギー、何千年も続くエネルギーに変えることができるのです。

け早く原子力の時代に備える必要があります。その鍵となるのは、地球上のあらゆる人間のためにクリーンで安全なエネルギー供給を確保することです。きちんと設計、建設、運転されている原子力発電所は、文明存続のために不可欠なクリーンな、安全なエネルギー源なのです。



ブルーノ・コンビ氏

1960年 フランス生まれ。エコロジスト、ブルーノ・コンビ研究所・理事長。幼少時代をアフリカのジャングルやアメリカのロッキー山脈で過ごす。エコール・ポリテクニク卒業後、85年原子力工学の学位を取得し、その後、エコロジストとして活躍。93年健康増進と環境保護を目的として、ブルーノ・コンビ研究所を設立し、今日に至る。著書に『エコロジスト ブルーノ・コンビ 原子力を語る』などがある